

皮膚科専門研修プログラム

診療科の特色

皮膚科は皮膚を通して全身を診るスペシャリティーとして欧米では医学生や研修医に大変人気のある診療科です

米国では皮膚科レジデントの応募倍率が高く人気のある診療科です。人気の秘密は、専門医としてのステータスが高い、開業しやすい、ある程度自分の時間を持てる、などいろいろあるようですが、何よりも皮膚科学自体奥が深く、診断から治療までをほぼ一貫して行っていることが皮膚科学の魅力であり、一生をかけて勉強する価値のある専門科であるということが大きな理由と思われます。

信州大学皮膚科は奥山教授以下指導医スタッフが充実しており、症例が多く、関連病院も多数あり、皮膚科の研修病院としての教育環境は全国的にも有数です。

皮膚腫瘍学、とくにメラノーマの研究では国際的にも高く評価されており、臨床に直結した研究が活発に行われています。大学院で学びたい方の希望にも添える研究環境です。

腫瘍以外でも皮膚科全般にわたり、県下の主要な病院と連携しながらレベルの高い診療を実践しています。一般的な疾患からまれな皮膚疾患まで様々な症例を経験することができ、皮膚病理や手術を含め皮膚科の研修病院としての教育環境は全国的にも有数であると自負しています。また、教室員は教授以下25名ほどで、女性が多いです。

皮膚科研修は信州大学皮膚科での研修をお勧めします！

皮膚科では一般的な疾患からまれな皮膚疾患まで対象疾患が多数あります。このためさまざまな症例を経験することが重要と考えます。特に診断の難しい症例や治療が難しい症例、重症例を経験しておくことで、どんな症例に遭遇しても対処が可能となります。特に皮膚悪性腫瘍については、将来皮膚科のどの分野に進む場合でも(美容皮膚科などに進む場合でも)ほぼ必ず診断知識が必要となります。したがって皮膚悪性腫瘍を含めた総合的な治療を行っている施設での研修を行うことを強く勧めます。

当科は症例数も多く、ダーモスコピー(腫瘍を光学的に拡大して画像診断する方法です)による臨床診断に力を入れており、世界的な業績を上げています。

さらに皮膚病理診断にも力を入れており診断に関して十分な研修が可能です。また、手術、化学療法を含めた治療を一貫して行っており、手術手技の習得、化学療法の習得も可能です。

小手術を含め年間約310件の手術、そのうちメラノーマが年間30～50例、センチネルリンパ節生検が15例ほど行われます。

専門研修では少なくとも年間20～30例の手術経験が可能です。

悪性腫瘍以外にも当科には長野県内の重症例、難治例の多くが集まってくるので、総合的な研修が可能です。



ダーモスコピー

一般的な皮膚疾患については、地域の病院での外来診療や、研修連携施設病院での研修により、多くの症例の経験が可能です。

また当科では、臨床に直結した研究が活発に行われています。大学院で学びたい方の希望にも添える研究環境です。メラノーマ、アトピー性皮膚炎、乾癬を中心に治療や診断法など臨床に結びついた研究から、発癌に関わる基礎的な研究まで、多彩なテーマで行っています。

<信州大学皮膚科のここが魅力>

1) 実力ある指導医がいます！

奥山教授をはじめ、深い知識と人間的魅力に溢れる指導医が待っています。現在皮膚科専門医は10名以上在籍しています。

2) やりがいのある仕事があります！

外来には、県内外から、悪性腫瘍ばかりでなく、膠原病、水疱症、アトピーなど様々な疾患の患者さんが受診されます。当科では、皮膚生検等の検査、病理組織診断、手術などを含めて、診断から治療までをほぼ一貫して行っており、皮膚科を広く深く学ぶことができます。研究も盛んで、メラノーマを中心に、治療や診断法など臨床に結びついた研究から発癌に関わる基礎的な研究まで、多彩なテーマで行っています。臨床や研究に携わっていく中で、自分の興味の持てる分野が必ず見つかると思います。

3) カンファレンスが充実しています！

臨床写真による外来症例検討会、病理組織検討会、問題症例の検討会等を定期的に行なっています。日常的疾患から診断の難しい症例や治療に迷う症例まで、複数の指導医を含め皆で検討することにより、経験を共有し診断力や知識を高めていくことができます。

4) 女性医師に対するサポート体制があります！

子育て中の女性医師も働きやすい環境作りを心がけています。

現在複数の子育て中の女性医師が勤務しています。

女性用更衣室完備です。



総回診



症例検討会

研修カリキュラム

専門研修プログラム

専門研修プログラムにより研修を行い皮膚科専門医の取得を目指します。研修を修了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標としています。

信州大学医学部附属病院が研修基幹施設、また県内の指導医のいる病院が研修連携施設となり研修施設群を形成します。研修期間施設単独のプログラムは認められていません。

研修期間

研修期間は初期臨床研修終了後、研修プログラムに登録してから5年間です。初期臨床研修期間は専門医研修期間には含まれません。

研修基幹施設で1年以上研修を行うこと、また研修基幹施設以外の連携施設等で3か月以上の研修を行うこととされています。

産休・育休両者合わせて最長6か月まで研修期間として認められます。



手術

プログラム構成病院の概要

(研修中に派遣される病院の指導体制など)

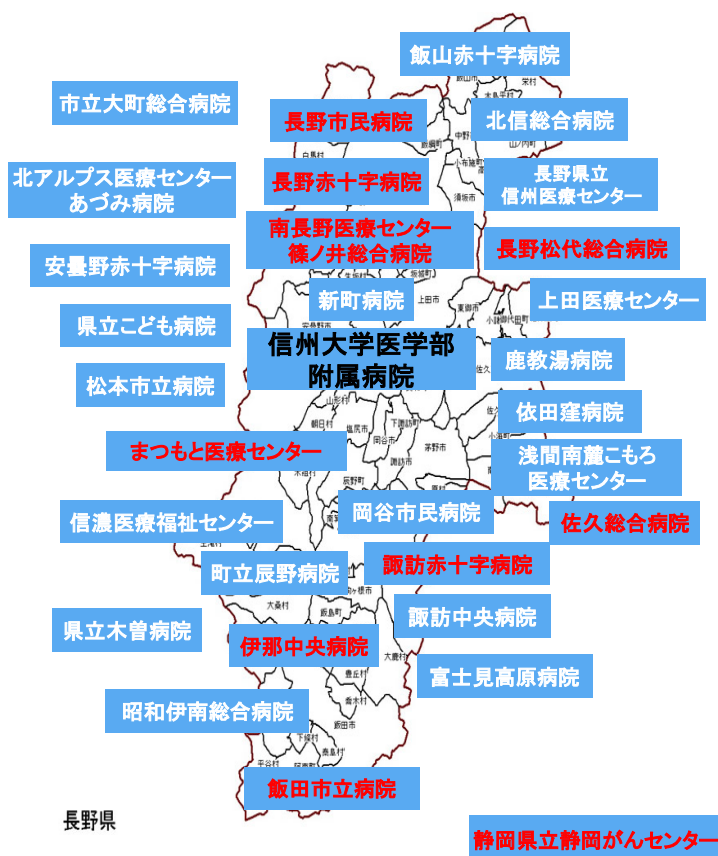
指導医資格を持つ医師が指導に当たります。

指導医資格は、皮膚科専門医を1回更新または指導医講習会を受講し、かつ共著論文(ファーストオーサーでない)が1編以上ある専門医に与えられます。

長野県内外の関連病院は常勤、非常勤含め31病院あり、このうち常勤医が指導医資格を持つ研修連携施設(右図:赤字)は10施設あります:

長野赤十字病院、長野市民病院、佐久総合病院、長野松代総合病院、南長野医療センター篠ノ井総合病院、まつもと医療センター、伊那中央病院、飯田市内立病院、諏訪赤十字病院、静岡県立静岡がんセンター

このうち現在、後期研修医が研修を行っている関連施設は長野赤十字病院、伊那中央病院、飯田市内立病院です。



関連病院と研修連携施設

研修予定

1. 信州大学医学部皮膚科では、医学一般の基本的知識技術を習得した後、難治性疾患、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行います。

また皮膚悪性腫瘍に対する手術療法、化学療法、終末期医療を習得し、さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培います。また、少なくとも1年間の研修を行います。

研修内容

外来: 診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟: 病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

2. 研修連携施設では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、信州大学医学部皮膚科の研修を補完します。

研修内容

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修コース(以下a~dに例を示します。実際はその都度相談して決定します。)

a: 研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。

b: ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。

c: 研修後半に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。

d: 専門医取得と博士号取得を同時に目指すハイパーコース。多大な努力を5年間持続する必要がある。特に4年目、5年目は濃密な臨床研修を行わないとカリキュラム修了は困難である。カリキュラムを修了できない場合は6年目も大学で研修することを前提とする。

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	基幹	連携	連携	基幹
b	基幹	基幹	連携	連携	連携
c	基幹	連携	連携	大学院 (研究)	大学院 (臨床)
d	連携	大学院 (研究)	大学院 (研究)	大学院 (臨床)	大学院 (臨床)

サブスペシャリティー・学位取得の道筋

皮膚科領域のサブスペシャリティー

皮膚疾患は内科的疾患から外科的疾患まで多岐にわたります。このため、免疫アレルギー、炎症性疾患、代謝異常、膠原病、感染症、悪性腫瘍、皮膚外科など様々な分野で、臨床はもちろん研究においても専門性を高めることが可能です。

取得可能な資格

日本皮膚科学会認定皮膚悪性腫瘍指導専門医

専門医取得後2年から受験可能で、通算5年以上の皮膚悪性腫瘍治療経験が必要です。

規定の学会発表、論文数、手術数、化学療法治療数などを満たし認定試験に合格することにより取得できます。

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

専門医取得後、がん治療研修2年、規定の学会発表、論文数、セミナー参加、認定試験に合格することにより取得できます。

学位取得の道筋

大学院入学にて学位取得が可能です。信州大学内での研究のほか国内の他の施設で研究をおこない学位を取得することもあります。

また臨床を行いながら研究を行い論文をまとめて学位を取得することも可能です。

大学院での研究テーマ、臨床研究のテーマなど

・皮膚色素性病変のダーモスコピーによる解析

非侵襲的に表在性皮膚病変を診断するツールであるダーモスコピーを用いて、さまざまな皮膚疾患のパターンを解析し、診断アルゴリズムの確立を試みる。

・メラノーマと色素細胞母斑の遺伝子変異の解析

メラノーマと色素細胞母斑はいずれもメラノサイトを起源とする腫瘍であるが、その発生過程における遺伝子異常には様々な違いが存在する。遺伝子変異の違いを明らかにすることで、より正確な診断に役立てるとともに、個別化医療への展開も期待できる。

・メラノーマ患者末梢血循環DNAの解析

メラノーマの末梢血循環DNAを解析し、活性型変異の経時的変化と病態との相関を明らかにし、さらに検討を加えている。今後の個別化医療や予後予測および、新規治療法の開発に役立てる。

・表皮細胞の増殖分化制御機構の解析

表皮細胞の増殖分化に影響を与えるシグナルとしてRunxが注目されており、Runxの発現と調節による表皮細胞の変化を研究し、炎症性角化症などの皮膚疾患の機序の解明を目指す。

・大気汚染物質によるアトピー性皮膚炎発症機構の解析

アトピー性皮膚炎の発症には、遺伝的要因と環境要因が深く関連している。私たちは、主にトランスジェニックマウスを用いた解析により、大気汚染物質によるアトピー性皮膚炎発症機構を明らかにしつつある。

国内留学・海外留学

最近の留学先

- 国内 ・慶応大学医学部先端医科学研究所 細胞情報研究部門
腫瘍の免疫応答の解析、メラノーマの分子生物学的解析
- ・東北大学大学院医学系研究科 生物化学分野
転写調節に焦点を当てた発癌の分子細胞生物学的解析
- ・東北大学大学院医学系研究科 医化学分野
環境化学物質と炎症との関連の解析

- 国外 ・John Wayne Cancer Institute(米国)
Post doctoral associate(有給)
メラノーマの分子生物学的解析
- ・Baylor医科大学(米国)細胞遺伝子治療センター
Post doctoral associate(有給)
メラノーマの免疫応答の解析
- ・Graz医科大学
Guest scientist
皮膚病理とダーモスコピー



留学先での学会発表



留学先の先生や仲間と

将来の就職先など

- ・当教室は、県内のほとんどの主要病院の皮膚科と連携しており、常勤あるいは非常勤で医師を派遣しています。
 - ・一人前の皮膚科医になるためには10年が一応の目安となります。
- このため10年目以降の就職が望ましいと考えます。

長野県の皮膚科専門医はまだ十分な数ではないので、就職、開業の余地が充分あります。
また研究・教育スタッフとして大学勤務も可能です。

他の研修プログラム在籍者の受け入れ

要相談の上、受け入れを検討します。

連絡先

信州大学医学部 皮膚科学教室

■住所: 〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 ■電話: 0263-37-2645 ■FAX: 0263-37-2646

■E-mail : derma@shinshu-u.ac.jp

■U R L: <https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/i-hifu/>

■専門研修プログラムの詳細は、信州大学医学部附属病院HP 卒後臨床研修センター → 専門研修 [皮膚科]